

今後の水・大気環境行政の在り方について（意見具申（案））（概要）

参考資料 3



- この先10年～の期間の水・大気環境行政の方針。今後、**第6次環境基本計画策定に向けた議論にもインプット**しつつ、水・大気環境局の**組織再編後の水・大気環境管理の一層効率的な実施**を図る。
- 1. **気候変動（緩和・適応）、生物多様性、循環型社会等への対応**、2. 水・大気環境行政の**共通的・統合的課題**、3. **個別の重点課題**（大気環境保全、水・土壌環境保全の重点課題）の3つで構成。

1. 気候変動、生物多様性、循環型社会等への対応

（ア）2050年CN実現と水・大気環境改善の両立及び相乗効果の発揮

- ・ SLCPsであるオゾンを主成分とする光化学オキシダント濃度を低減 CN:カーボンニュートラル
SLCPs:短寿命気候汚染物質

（イ）気候変動への適応等と水・大気環境保全の同時推進

- ・ 災害・事故に起因する化学物質リスクの評価・管理手法研究の政策への反映 等

（ウ）生物多様性と水・大気環境保全の同時推進

- ・ 生物多様性・自然環境保全を目指す良好な環境の創出、**豊かな海づくり** 等

（エ）循環型社会の構築と水・大気環境保全の同時推進

- ・ 海洋環境保全と**プラスチック**に係る資源循環の施策の連携 等

2. 水・大気環境行政の共通的・統合的課題

（ア）良好な環境の創出

- ・ **水道水源**となる森や川から海に至るまで、**OECMも活用**した良好な環境の創造に取り組む**地域モデル**の構築、環境創造の情報開示による**企業価値の向上** 等

（イ）水、土壌、大気の媒体横断的な課題への対応

- ・ **窒素管理**に係る行動計画策定、全ライフサイクルの**プラ汚染対策**・科学的知見集約等

（ウ）デジタル技術を活用した環境管理

- ・ 測定等での**デジタル技術の活用**、手続のオンライン化、環境情報のオープンデータ化 等

（エ）関係者との対話と協働

- ・ 優良事例の共有による地域の連携・協働、リスクコミュニケーションの推進 等

（オ）科学的知見の充実、人材の育成及び技術の開発・継承

- ・ 研究者とのコミュニケーションを通じた最新の科学的知見の政策への活用 等

3. 個別の重点課題

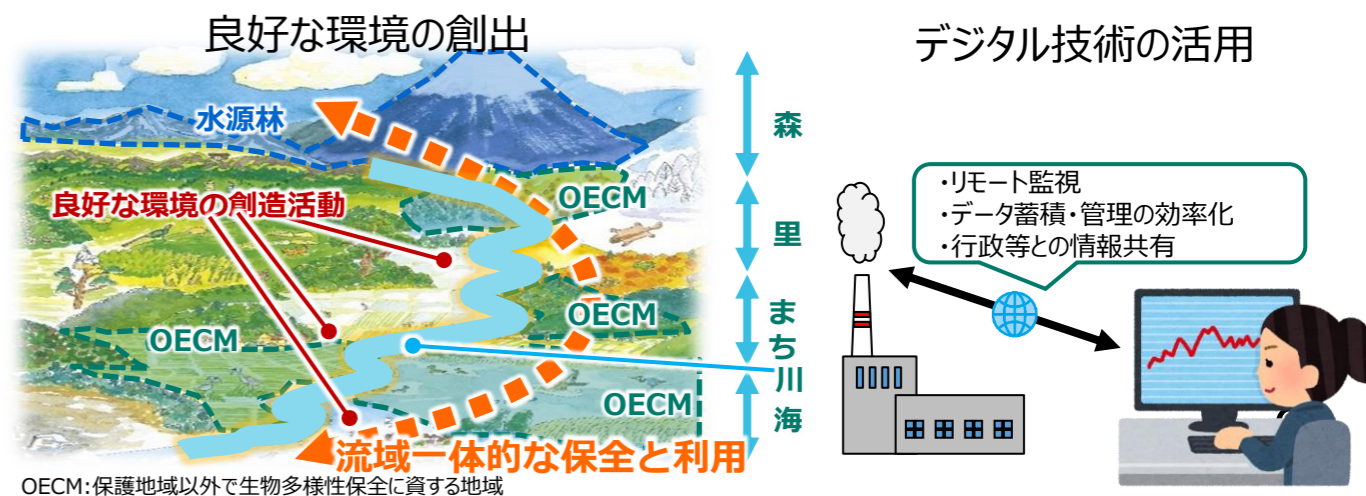
＜大気環境保全の重点課題＞

- （ア）大気、（イ）有害大気汚染物質・石綿・水銀、（ウ）悪臭・騒音、（エ）国際協力

＜水・土壌環境保全の重点課題＞

- （ア）公共用水域、（イ）土壌・地下水、（ウ）農薬、（エ）PFAS、（オ）**水道水質・衛生**、（カ）薬剤耐性(AMR)、（キ）国際協力

残された課題（**光化学オキシダント**の環境基準達成率の低さ、湖沼や閉鎖性海域の水質汚濁、有害大気汚染物質の環境目標値の設定、土壌汚染等）、新たな課題（再生可能エネルギー等の導入に伴う大気環境や騒音への影響、**地域ニーズに即した環境基準**の検討、**プラスチック**、**PFAS**等）への対応に尽力。



OECM:保護地域以外で生物多様性保全に資する地域